



本町ほのぼのだより 第4号

発行：中野区立本町図書館 中野区本町2丁目13番2号 TEL 03-3373-1666

発行年月日：平成23年12月22日 第4号

第4回 本町図書館 個性づくりテーマ展示 生活の中の伝統工芸 ～和の装い～

本町図書館では、『文化・芸術・芸能』に関する資料を、絵画や音楽、工芸、伝統芸能など幅広い分野にわたって収集・展示をしております。

第4回目となる今回は、「生活の中の伝統工芸～和の装い」と題して「伝統工芸」をテーマにした展示をお届けします。

皆さんは「伝統工芸」と聞いて何を思い浮かべますか？陶芸、蒔絵、寄木細工、着物、染め物など様々かと思えます。今回はその中でも、代表的な着物と陶芸の歴史や豆知識などをご紹介します。

展示場所：本町図書館 2階書架

展示期間：平成23年12月22日(木) ～ 平成24年2月23日(木)

※展示資料は貸出もできます。



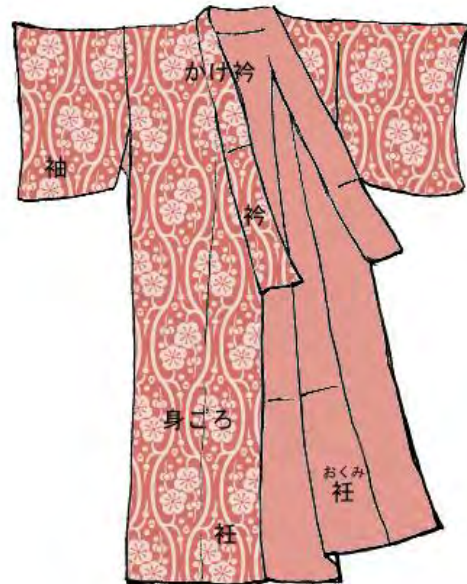


着物の歴史

着物は古くから用いられていた「小袖」という衣服が変化してだんだんと今のような形になりました。小袖の原型は弥生時代の貫頭衣でした。貫頭衣とは、一枚の布を真ん中で折り頭の部分に穴をあけた衣服です。やがて体を守るために、袖や衿などをつけるようになったといわれています。

やがて平安時代に色を重ねて着る「十二単」が登場します。この時、小袖は貴族の下着でした。武家の時代となった鎌倉時代になると、動きやすい小袖が表着として広まりました。江戸時代には「友禅染め」や「鹿の子絞り」などさまざまな技法が生まれ、着物はますます華やかになっていきます。そして明治時代、江戸時代に町人の女性が着ていた「小袖」は普段着に、「打掛」は婚礼衣装に用いられるなど、ほとんど現代と同じ様式になりました。

着物の名称



着物の染め・織り

有名な着物の織物と染物の産地をご紹介します。黒字は織物、赤字は染物です。代表的なものを簡単にご紹介をします。

京友禅 はなやかな染めに、さらに刺繍がほどこされることもあります。

加賀友禅 京友禅に比べて色や柄は控えめで、刺繍は入れません。

江戸小紋 小さな点で表した模様と一色での染めが特徴です。

りゅうきゅうびんがた
琉球紅型 沖縄で唯一の染物。華やかな色彩のものと、藍色一色のものがあります。

ゆうきつむぎ
結城紬 蚕の繭を茹で広げ袋状の真綿にしてから紡いだ糸で織り上げます。ふっくらあたたかな風合いが特徴です。

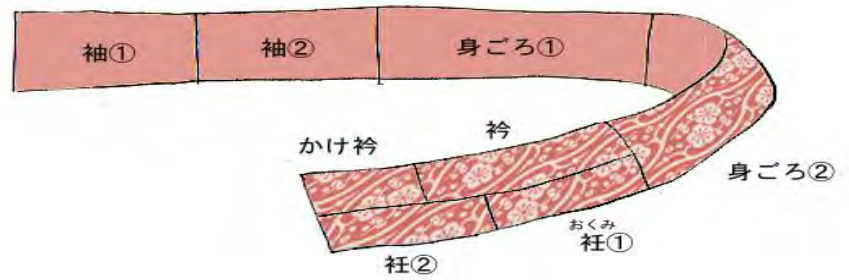
とうざん
館山唐棧 唐棧とは、江戸時代にオランダ船で輸入された木綿の縞織物のことです。

各地に産地がありましたが、今も昔の方法で製造するのは館山唐棧のみ。絹のような光沢が特徴です。



着物マメ知識

着物は一枚の布からできているってご存知でしたか？着物は一枚の長い布を直線で裁っています。余分な端切れが出ないので、無駄がなくほどいて並べれば長方形になります。着物があちこち傷んできたら、ほどいて洗って布に戻しきれいに作り直すこともできます。さらに布が傷んでしまっても、布団にしたり座布団にしたり色々なものに再利用していました。また、ほどく際にでた糸でさえ、しまっておいて次の縫い物に使いました。



和の小物の語源



巾着 (きんちゃく) 巾は布切れの意味で、体につけて持ち歩く布切れなので巾着といいます。腰につけたので腰巾着ともいわれ、ここからいつもある特定の人にくっついてまわる人を腰巾着と呼びます。

印籠 (いんろう) 元は印鑑や印肉を入れた小さな器だったので、印鑑を入れる籠の意味で印籠となりました。のちに携帯用の薬入れにも使われるようになります。

根付 (ねつけ) 帯にはさむ巾着や印籠が落ちないように、紐の根元に付けた小さな工芸品。象牙や珊瑚、瑠璃など、凝った細工を施したもので、骨董的価値が高いものも多くあります。

ふろしき 風呂に敷いた布なので、そのまま風呂敷です。足利義満が大きな風呂を作った時、大名が家紋入りの布に自分の衣服を包んだりその布の上で足を拭いたりして、身支度をしたといわれています。



草鞋 (わらじ) わらぐつ→わらうづ→わらんづ→わらんぢ→わらじ、と変化してわらじになりました。すべりにくいので、傾斜地や水の中でも用いました。

足袋 (たび) 「たびぐつ」の略であるや、鹿や猪などの一重の皮からつくった^{たび}単皮からきた、などの説があります。

出典資料

- 「きものの絵本」 高野紀子著 あすなろ書房 2009.09
- 「染め織りめぐり」 木村孝監修 JTB 2002.10
- 「和」の名前 絵事典 PHP 2008.06
- 「着物の事典」 大久保信子監修 池田書店 2011.07





日本のやきものと伝統

世界で一番古い土器はどこで作られたのでしょうか。

青森県蟹田町から発掘された土器片、およそ1万6500年前。

長崎県泉福寺から出土した豆粒文土器（とうりゅうもんどき）、およそ1万3000年前。

その説は諸々ありますが多くの研究者は、遅くとも約1万5000年前には日本列島で土器が使われていたと考えているようです。

1万5000年前。

氷河期が終わりに近づきつつある時代。

狩猟や採集を基盤とする文明以前の社会でした。

人々は一体、何を思い、どんなことを感じながら日々の生活を営んでいたのでしょうか。

なにがきっかけとなって土器が作られるようになったのでしょうか。

遠い遠い昔の暮らしです。



縄文時代が始まったのが約1万2000年前。

その頃の平均寿命は14.6歳だったというデータがあります。それが平安時代には24歳くらいになったそうです。

まあ細かいことは抜きにして、仮に織田信長の言う「人生50年」を乱暴な物差しに測ってみますと、

300人の人生を繋ぎ合わせれば1万5000年前まで手が届きます。

そう考えてみると、わたしたちの遠い祖先の息遣いを感じられるような気がします。

土器が作り始められた頃の生活もおぼろげながら見えてきたりしないでしょうか。

焚き火をした後の地面が固くなっているのを発見した人の驚きとか・・・。

世界に先駆けて土器を作った日本ではありますが、釉薬（うわぐすり）の発想を獲得出来なかった為その発展は遅れ、長い間土器の時代が続きます。

その後、5世紀（古墳時代）に朝鮮から須恵器（★1）が、7世紀（飛鳥時代）には鉛釉（えんゆう）（★2）の技術が伝わります。

こうして日本の陶芸は朝鮮や中国のやきものを基礎にしながら、ゆるやかに前進してゆきます。

大きく発展したのは16世紀（桃山時代）になってからです。

千利休が現れ、「茶の湯」という日本独自の文化・美の提唱が、やきものの創造活動を刺激してゆきます。

手捏ね（てづくね）（★3）で成形を行なう独自の工法が認められた長次郎は、黒楽・赤楽の茶碗を残します。

それぞれに技術は革新され、各地の窯々に伝えられ備前・信楽といった焼締（★4）が注目を集めます。

また、唐津や織部といった施釉陶が作られ始めます。こうして日本独自の美意識や生活様式が反映された素朴な器が作り出されます。

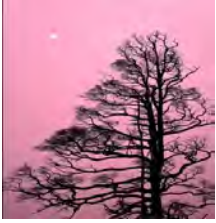
さらに江戸時代には有田で磁器（★5）が焼かれるようになり、現代にも繋がるやきものが出揃います。

昭和初年にかけての1920年代に、民藝運動を推し進めたのが柳宗悦です。

この運動は西洋的な意味でのファインアートでもなく、高価な古美術品でもない、無名の職人による日常雑器・日用品などに真の美を見出そうとする活動です。

宗悦自身が日本全国を歩き地域に根付いた工芸品を発掘し世に広く紹介してゆきます。

更に活動の拠点として「日本民藝館」を開設し、集大成として「手仕事の日本」を著します。



「使いたい徳利なんだよ。そして飲みたい徳利なんだよ。いい味になるよ。こりゃ飲みたい徳利だよ」

知り合いの骨董品屋で突然「狐がついた」ように逆上して骨董の世界にのめり込んでいったのが小林秀雄です。

彼の骨董仲間には青山二郎、秦秀雄、白州正子等がいますが、いずれも「いじって」「使う」ことを信条としていたようです。

小林秀雄は値が付けられないくらい貴重な茶碗（李朝初期・彫三島茶碗）で牛乳を飲んでいたという話も伝えられています。

美しい器を見ることと、それを使うことが一体となった彼の態度は、千利休の世界観、そして柳宗悦の民藝運動の精神にも通ずるものがあるのではないのでしょうか。

わたしたちの生活の風景を見まわしてみると、そこには焼き物を含めたくさんの工芸品があります。

それらの品々全てに、時間を超えて受け継がれてきた技を見ることが出来ます。

1万5000年前の土器に始まり、受け継がれてきた名もなき職人たちの技。

そして、それを使い続けてきた人々の生活。

大きな時間の流れの中で捉え直してみると、伝統とは「受け継ぐもの」でもあり、また「未来を創造すること」でもあるのではないのでしょうか。

一瞬の光にさえも例えられる、わたしたちの儂い人生。

日常の中に、日本人の精神の美しさを感じながら伝統の上で優雅に遊びたいものです。



★1 須恵器：「ろくろ」を使って形づくり、地下に作った穴窯で焼く。高温で焼ける為、土器よりも丈夫。

★2 鉛釉：酸化鉛を主成分とした釉薬。低火度で溶け、鮮やかな色が出る。

★3 手捏ね：「てびねり」ともいう。手先だけで生成する方法。

★4 焼締：釉薬をかけずに1100度以上で硬く焼く。光沢を帯びた土の味わいがある。

★5 磁器：石が細かく砕けて粘土質になった「磁土」を焼いて作る。硬くて薄い器が作れる。

参考資料

「やきものの絵本」 よしだあきら／編 農文社 2008.03

「陶芸の教科書」 矢部良明 実業之日本社 2008.10

「人口から読む日本の歴史」 鬼頭宏 講談社 2000.05

「柳宗悦 民藝の旅 “手仕事の日本”を歩く（別冊太陽 太陽の地図帖7）」 平凡社 2011.04

「小林秀雄 美と出会う旅（とんぼの本）」 白州信哉 新潮社 2002.10

展示図書リスト



書名	著者	出版者	出版年	請求記号
★着物の本★				
着物のえほん	高野紀子／作	あすなろ書房	2009.09	383 タ
調べてみよう！日本の職人伝統のワザ3		学研教育出版	2011.02	502 シ
着物まわりの小物レシピ	誠文堂新光社／編	誠文堂新光社	2011.10	593.1 キ
着物の事典 伝統を知り、今様に着る	大久保信子／監修	池田書店	2011.04	593.8 キ
これであなたも着物美人	安田多賀子／講師	NHK出版	2011.09	593.8 ヤ
きもの描き方図鑑 改訂版	林晃・森本貴美子 ／共著	グラフィック社	2011.08	726.1 ハ
帯留 2	池田重子／著	ハースト婦人画報社	2011.07	755.3 イ
幸田文きもの帖	幸田文／著 青木玉／編	平凡社	2009.04	914.6 コウ
★陶芸の本★				
この器で食べたくて。		エフジー武蔵	2011.03	596.9 コ
暮らしの器	Soramill／著	学研パブリッシング	2010.04	596.9 ク
週末陶芸のすすめ	林寧彦／著	文藝春秋	2008.04	751.0 ハ
基礎からわかるはじめての陶芸		学研パブリッシング	2009.10	751 キ
やきものの絵本	よしだあきら／編	農山漁村文化協会	2008.03	751 ヨ
すぐわかる産地別やきもの見わけ方	佐々木秀憲／監修	東京美術	2010.12	751 ス
オープン陶芸粘土のこもの		ブティック社	2008.11	751.4 オ
★和を楽しむ本★				
下駄本	榎本準一／著	平安工房	2009.02	589.2 エ
ほっこりかわいい大人の和小物	こもりかつこ／著	ブティック社	2009.11	594 コ
柳宗悦民藝の旅“手仕事の日本”を歩く		平凡社	2011.05	750.2 ヤ
日本の手仕事 伝統の手わざが生み出す美しい日用品	小澤典代／著	主婦の友社	2011.10	750.2 オ
和風伝統紋様素材集・雅	kd factory／著	ソトパブリケーション	2011.10	727 ワ



伝統工芸を知ろう！



■ 中野区立図書館の所蔵資料から調べる

書名	著者	出版者	出版年	請求記号
全国伝統的工芸品総覧	伝統的工芸品産業振興協会／編	ぎょうせい	2003.12	R750.3 ゼ
日本の意匠事典	岩崎治子／著	岩崎美術社	1986	R757.2 イ
原色日本服飾史	井筒雅風／著	光琳社出版	1982.07	383.1 イ
国宝大事典4「工芸・考古」	北村哲郎／編	講談社	1986.01	709.1 コ4

■ 中野区で学ぶ

☆東京工芸大学

中野区本町にある東京工芸大学では、一般の方に向けた公開講座が開催されています。

所在地：東京都中野区本町 2-9-5

TEL：03-3372-1321

ホームページ：<http://www.t-kougei.ac.jp/>

■ 中野区で工芸品に触れる

☆中野区伝統工芸展

※ 2011年(第20回)は勤労福祉会館にて、6月3日(金)～6月5日(日)で開催しました。

工芸品の展示、実演と即売会。東京手書友禅・貝合せ・東京無地染・陶芸・和人形・組み紐・江戸木彫刻など。

☆中野新井薬師骨董市

昭和51年頃から始まり、乃木神社骨董市と並んで関東では最も歴史のある骨董市です。

古伊万里を中心として唐津・李朝などの陶磁器のお店や時代着物・古布などのお店がたくさん出店しています。

開催日時：毎月第1日曜日(雨天中止) 午前6:00～午後3:30

会場：新井薬師 境内(東京都中野区新井 5-3-5)

■ 関連施設

☆日本民藝館

民藝品の蒐集や保管、調査研究、展覧会などを行っています。

陶磁器・染織品・絵画・木漆工品など日本や諸外国の新古工芸品約17,000点が収蔵されています。

所在地：東京都目黒区駒場 4-3-33

TEL：03-3467-4537

ホームページ：<http://www.mingeikan.or.jp/>

☆東京国立近代美術館 工芸館

明治以降の日本と外国の工芸およびデザイン作品を収集しています。陶磁・ガラス・漆工・木工・染織・グラフィックデザインなど、約2,900点が収蔵されています。

所在地：東京都千代田区北の丸公園 1-1

TEL：03-5777-8600

ホームページ：<http://www.momat.go.jp/CG/cg.html>

本町図書館からのお知らせ

本町図書館個性づくり展示 「生活の中の伝統工芸～和の装い～」はお楽しみいただけましたでしょうか。これからもみなさまの身近にある、お役に立つ図書館、新しい発見のある図書館を目指して、スタッフ一同取り組んでまいります。

本町図書館子どもイベント案内

☆おはなし会☆

毎週土曜日 11:00～11:30
第4水曜日 15:30～16:00
児童室にて開催中！
第4土曜日は乳幼児向けの
「おひざでだっこのおはなし会」

☆冬のテーマ展示☆

1月 「昔話(むかしばなし)」
2月 「おいしいもの」
このほかにも、たくさんのおすすめ本を
用意してお待ちしております！



☆1月2月の休館日のご案内☆

<1月>

1日～3日(年始)、10日(火)、16日(月)、23日(月)
27日(金)館内整理日、30日(月)

<2月>

6日(月)、13日(月)、20日(月)、
24日(金)館内整理日、27日(月)

「本町ほのほのだより」
第5号は2月25日
発行予定です。

次回のテーマは
「音楽」です。
第5号もお楽しみに！